

日立市政に関する提言書

令和4年12月1日

日立市議会

環境建設委員会

1 はじめに

日立市議会における議会基本条例には、議員（委員）同士の自由闊達な議論により政策立案を進めることが規定されている。今般、テーマ選定や協議などの提言活動が更にスムーズに行えるようにするため、各常任委員会単位で協議会を設置し、令和3年5月から委員間討議を開始した。

委員間討議のテーマは、各委員が所属する会派から持ち寄った内容について解決すべき課題を分類し、短期・中期・長期テーマについて議論してきた。

環境建設委員会として、長年の課題であり多くの市民が生活に不便を感じている、「渋滞対策」を中期・長期テーマとして討議を進めた。

執行部においては、この政策提言書を基に、本市の「渋滞解消対策」に向けた取組を推進されることを期待するものである。

2 取組の経過

（1）委員間討議の開催

本委員会では、定例会中の委員協議会後や、委員会討議の日程を改めて設定するなど16回にわたり議論を進めてきた。

（2）執行部へのヒアリング調査

都市建設部（幹線道路整備促進課）より、市内の渋滞の状況について、資料を用いて説明を受けた。

（3）関係団体との懇談会

日立商工会議所交通運輸業部会と「道路の新設・拡幅による渋滞状況」や「現状の道路政策の改善点」などについて意見交換を実施した。

3 現状と課題

(1) 旅行速度は茨城県内ワースト1

日立市における国道6号の混雑時平均旅行速度は、市内全域において県内で最も劣悪な状況である。

日立市平均20.4km/h（県平均30.5km/h）

(2) 渋滞損失は県平均の4倍以上

国道6号は、渋滞損失時間が茨城県平均の4倍以上と県内屈指の深刻な状況にある。

市内の幹線道路（国道6号、国道245号、市道等）における渋滞損失金額は、年間で120億円。

(3) 道路容量不足

現在の自動車交通量は、全ての区間で道路容量が不足している。

特に、日立市から東海村の区間では、道路容量の約3倍以上の自動車が走行している。

4 提言内容

環境建設委員会として、日立市の道路渋滞における問題点や対策内容等について課題を抽出し、以下の提言とする。

- (1) 市内における渋滞箇所の状況把握を行い、渋滞回避による生活道路や通学路への車両流入を回避することを考慮しながら、発生事由の解析を図られたい。
- (2) 路線バスが起因となり渋滞発生している状況がある。利用者や二輪車運転者等の安全面も考慮して、バスベイ整備を促進されたい。
- (3) 信号機の位置やタイミングの最適化が必要と考える。茨城県との連携を行い、最適化に向けた整備をされたい。
- (4) 交差点における停止線や、右左折のレーン設置などポイントの改善も見直しが必要と考える。信号の改善も含めた総合的な検討を行われたい。
- (5) 山側道路については、朝夕の始発及び終着の路線バスの回送時に利用されている。一方で、大型車両が上り坂を走行するときの速度低下が、山側道路を走行する車両の速度を落とす要因の一つとなっている。国道の拡幅を行うことで改善されるため、拡幅工事の早期推進を図られたい。
- (6) 市民が利用する公共交通の定時制を確保し、通勤や買い物、通院等の利便性の向上を図られたい。また、企業や市民に対して、ノーマイカーデーの推進や交通モラルの向上等を促して交通量を改善する施策を早急に実施されたい。
- (7) 国では人工衛星等を利用して渋滞情報等を把握する技術を活用している。国等と連携を図り、ビッグデータなどとAI技術を活用して分析するシステムを構築し、交通渋滞発生を予測した先回りの信号制御や調整を行うなど、交通渋滞の抑制を図られたい。

5 結びに

幹線道路の交通渋滞については、市民や企業、他の常任委員会においても、交通渋滞の緩和に向けた課題の提起もされており、日立市の長年の課題とも言える。しかしながら、民間との意見交換の場で、「以前に比べると渋滞状況は改善している」との声も聞こえているものの、未だ解決に至っていない。

執行部におかれては、改めて市内の渋滞を重要課題と認識をしていただき、国や県との連携を密に取り、交通渋滞解消に向けた本委員会の提言を参考にされ、市長を始めとする執行部各位のご理解と対応を要望するものである。

以 上